



東北大学



平成 24 年 5 月 25 日

報道機関各位

東北大学大学院医学系研究科

## レビー小体型認知症患者の「幻視」を誘発する検査の開発に成功

－レビー小体型認知症の鑑別診断、早期介入に有用－

東北大学大学院医学系研究科高次機能障害学分野の森悦朗教授、西尾慶之講師、大学院生の内山信らのグループは、新たに開発した「パレイドリアテスト」を用いてレビー小体型認知症<sup>\*1</sup>患者において「パレイドリア」という錯視を誘発することに成功しました。パレイドリアとは、壁のしみや雲の形が人の顔や動物の姿に見える現象を指し、古くから幻視との関連性が指摘されていました。幻視はレビー小体型認知症の中核症状の一つですが、短い診察時間に幻視が観察されることはまれで、見過ごされてしまうことが問題になっていました。この検査により認知症患者から直接的に幻視と類似する症状を誘発でき、鑑別診断や治療効果の正確な評価が可能になるものと期待されます。この研究成果は、英国の科学誌「Brain」に掲載されます。

本研究は、文部科学省グローバル COE プログラム（脳神経科学を社会へ還流する教育研究拠点：代表 大隅典子 医学系研究科教授 平成 23 年度終了）、科学研究費補助金の支援を受けて行われました。

### 【研究内容】

東北大学大学院医学系研究科の森悦朗教授、西尾慶之講師（高次機能障害学分野）らのグループは、これまでもレビー小体型認知症や類縁疾患のパーキンソン病における視知覚障害について研究テーマとして取り組んできました。本研究では「パレイドリアテスト」という新たな検査を開発し、レビー小体型認知症患者から直接幻視と類似した症状（パレイドリア）を誘発することに成功しました。34 名のレビー小体型認知症患者の全員においてパレイドリアが誘発されたのに対して、アルツハイマー病患者では 34 名中 4 名に認められるのみでした。「パレイドリアテスト」を用いることで高い精度でレビー小体型認知症とアルツハイマー病の鑑別が可能でした。

本研究で用いられたパレイドリアテストは、図 1 のような風景画像を患者さんに見せ、そこに何が見えるかを説明してもらうという単純な検査です。レビー小体型認知症の患者さんは、花の写真のなかに「ヒトの顔」、ネクタイの写真に「ほっかむりをした女性の姿」を見出します。本研究で認められたパレイドリアの 80%以上はヒトやその他の動物の顔や姿に関するものでした。これはレビー小体型認知症の幻視の大部分がヒトや動物に関するものであることとよく一致しています。またパレイドリアテストは従来の神経心理検査や面接法では「幻視なし」とされていたレビー小体型認知症患者からもパレイドリアを誘発することができました。このことからパレイドリアテストは、幻視が出現する一歩手前の状態、もしくは幻視の発現にかかわる病態を検出していると考えられます。パレイドリアテストによって、今後レビー小体型認知症の早期診断・早期治療の実現、幻視の病態の解明がなされることが期待されます。

図1. パレイドリアテストとパレイドリアの例



(検査者)  
この写真には何が  
写っていますか？  
詳しくお話し下さい。

(患者)  
花ですね・・・。  
あ、顔もあります。  
動物が4匹います。



【用語説明】

\*1 レビー小体型認知症: アルツハイマー病について多いとされる認知症をきたす認知症性疾患。幻視、パーキンソン症状、認知機能の変動を中核的症狀とする。

【論文題目】

Pareidolias: complex visual illusions in dementia with Lewy bodies

「パレイドリア：レビー小体型認知症における複雑錯視」

掲載誌名： Brain 電子版

(お問い合わせ先)

東北大学大学院医学系研究科高次機能障害学分野

教授 森 悦朗 (もり えつろう)

電話番号：022-717-7358

Eメール：morie@med.tohoku.ac.jp

(報道担当)

東北大学大学院医学系研究科・医学部広報室

長神 風二 (ながみ ふうじ)

電話番号：022-717-7908

ファックス：022-717-8187

Eメール：f-nagami@med.tohoku.ac.jp